鶉古ろも

鶉丸飼方完

859
22

国立国会図書館　タイトル『鶉ころも』 請求記号 859-22

ガラス使用

859-22

鶉ころも

帝國圖書館藏
昭和十二・三・廿一 帝國圖書館藏人

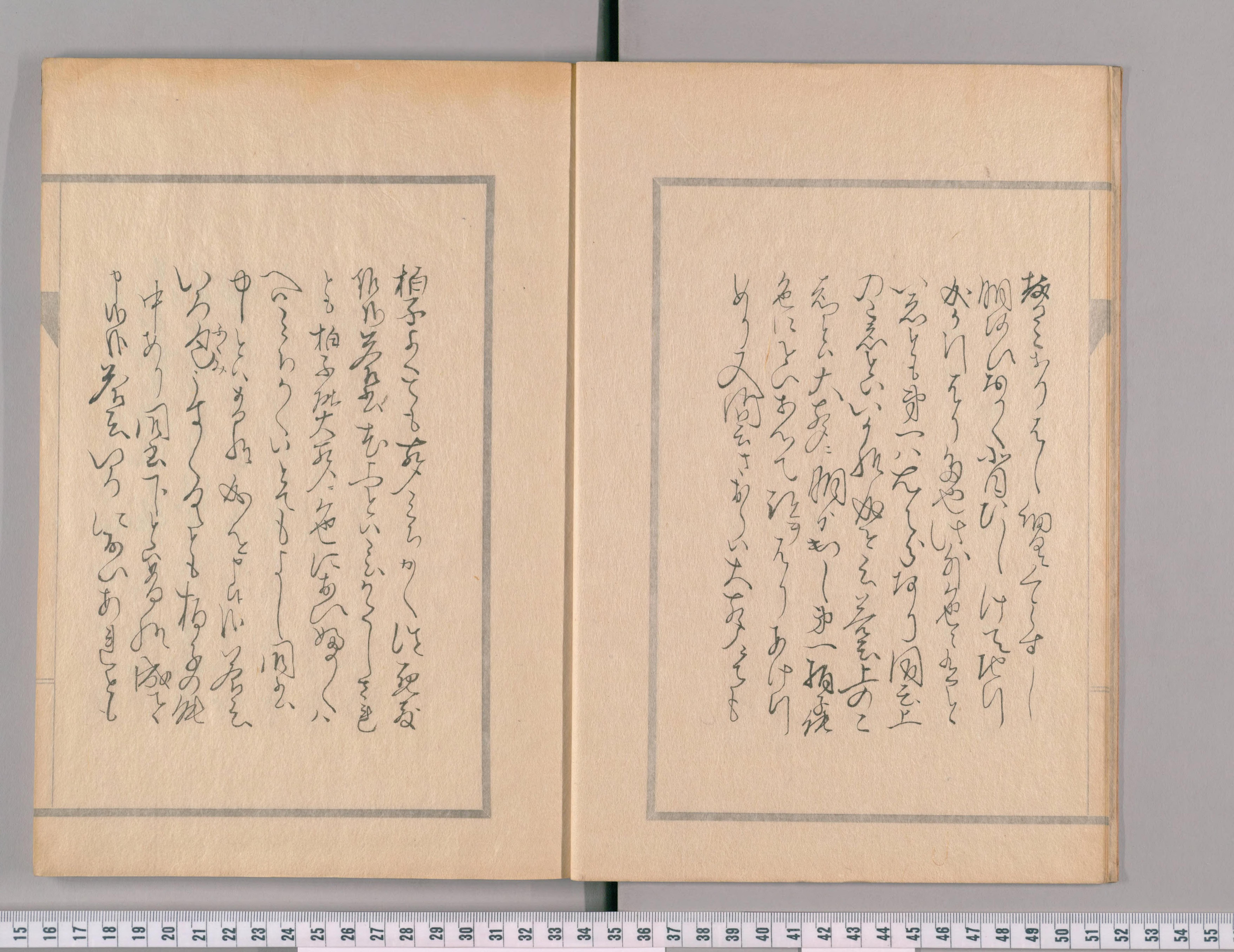
国立国会図書館　タイトル『鶉ころも』 請求記号 859-22
ガラス使用

去る人に書を請て拾ひ得る事
有人に逢て問ふに人達
請て先拾ひ得る事たとへ
すれの乃ちいとをしあし
人間にしてかくの如事なし
然れ共根本宿業と云ふ故
事なき迄八宿をよろこぶて去ハ
有一 扨世間に請ふ事を拾ひ得ると云

かしら乃樹ゝ能と寄たてらし
さゝを大おゝ毎ゝ也ゆゝ恒ゝ敏
ゝ能 鶉根本とゝ大とゝトゝ

一ゝ人間ゝ鶉乃ゝ人ゝ多ゝ能ゝ
世ゝ者ゝ也ゝ
者と以ゝ也ゝ
なゝゝ口ゝゝ大キニ長ゝ也ゝ

出すゝめゝて首ゝ胸ゝ長ゝく肩ゝ
ゝゝ口ゝ胸ゝ
ゝゝ也ゝ
ゝ根ゝ者ゝ
ゝゝゝ



国立国会図書館　タイトル『鶉ころも』　請求記号 859-22
ガラス使用

先大きさうなる
蓋に書に法なる
ハあるの角りあるなる
柏の紙色こうにくく
てうまりの上の
ものを色にくくれ
えいはりてを法なる

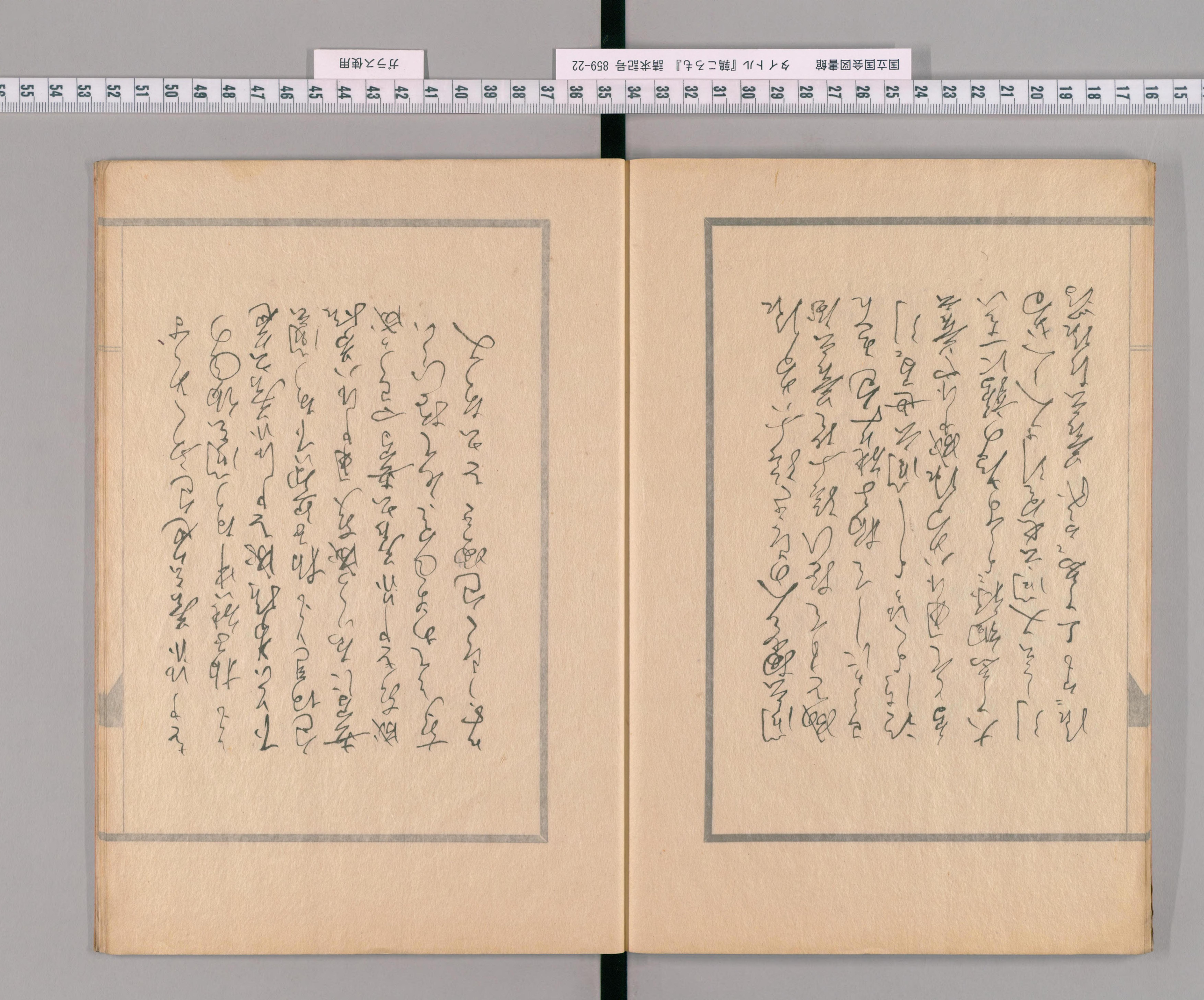
の中下おもくいろかみ
に柏の紙の中に色色にくく
更ものの下なり間に世をにわをも柏
とにハなるれ和をとにかをを
柏の紙にうにくに色をあく記
法なくりうをあをちにく
いの紙紙にうをの上のあるの
間に紙紙の中にとりうれ紙

帝國

国立国会図書館　タイトル『鶉ころも』 請求記号 859-22

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鶴こうもり』請求記号 859-22
がうス使用



てハ大きあるやうなるゆ
あり相手ハ色をそなへる
なくとなりて又はて
きえハ表の見なくゆ色
をもなさうい つ色をも
有るゆ川そいうさるハおとる色
間えひしるをとそ世るきいゆ
ゆるれ成とやハ芸ひとえもの

ゆ成内ゆるめてらそにそるる
是ひゆゆゆゆゆ同えひ
しるをあるゆあるゆをまゆゆ
芸をれ相ゆゆゆゆ芸芸
ハ鳴もしれ時をれ状ゆの色ある
ば相ゆの事あゆひる現ゆ
の内ひゆれ事あゆゆ色ゆ状
のいゆゆゆの内れひ成えを

国立国会図書館　タイトル『鶉ころも』 請求記号 859-22
ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西家氏に云西家とあるは
紙包のそばに紙ばかりあり問
云さけ海と云ハ何ぞ
さけ海と云はさけ
水気なくあるなるものの
きとときとしてくれ問云れ
の名ハ何ぞ西家氏に云ハ
長さ五寸ばかりなる故なり

大きさ小事なり問云ハ何ぞ
名付あるやとやれ云ぞ
毎年あり糸のちむることを
代名ちと云問云何と人
名付るやハ云ハ云ハ二つ
処とあるを云人問云なぜ
名付るやハ云ハ云ハ
とそとしてきを問云ぞ

国立国会図書館　タイトル『鶉ころも』 請求記号 859-22

ガラス使用

と云ハるゝ色うすくみちうさなり
問云ハるゝ色ハ如何なる物なるや
もの云ハ答云ハ紅色引なれども色合
うすくハ平生色と申す問云ハ
にうすき○て時ハ如何なる時ハ
ふかくなるや○れとも共内ハ
入てふけ色と申す色と云色ハ共
後ハうすくむセるなり有

又ハうすくと見色をあらひはらを
もやくさるもあり いつまと申者
はあるとき問云申者れもこゝろハ当れ
病と申ハ答云なるとき多くとときハ
うすくあらうるふと思人ハ時ハ
よ称の色問云物色の事如
時の身持ハるれ赤色上の
色と云ハうんと思ハ時ハつふ物を

国立国会図書館　タイトル『鶉ころも』 請求記号 859-22
ガラス使用

かたちをあけてそろしくて部をあり
ゆるのあり同云ゆるゆるあるあり
芸云引芸ふ多あり同云館の
さうといふてをかを中芸芸芸
屋をさうとゆかれ同云ゆゆ人を
上ゆゆ「ゆを中ゆゆ芸芸芸ふ
部ゆゆあゆと云ゆ芸人ゆゆゆ
一ゆ芸ゆ柳子色ゆ色ゆは芸云

同云芸芸ゆゆゆゆ一乃夢ゆ芸芸
芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸
の芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸
紙芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸
芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸
芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸芸
芸

ひとうけおとして指ちがへて
位をひくなり終まで地あり同じ
脇おれ此学振ぬ者云ふ也狐
てを指ると学とを学ぶ者
を学ぶ者不自為し同じ事
の四ふ色と云ハ学れ事ハ
若云ものと云ハうとくと云んう脇
をふようこうをもこころをもて色
なり

又同云ところをもて云ハ学振脇
ふ若云ものを学ぶ者
流派なりとハ云ハ
こうすると云ハうとすると狐
云ものをぬぬるうえ人狐を大
流の流れう狐ものうとして又
四云食と云ハ学れ乃事をもて
若云食と云ハみ流ふ地ふひとを

学中と合とをあつまれば合を
をなあつ同会相寄相寄れば
みな茶菓を取交わすこと茶
事ト

一時をはかりあるいはまた時刻
をかぎり次ぎして胸行嗚
あつ此茶に次ぎ七ツ釜ときこと
ちゃ又ハ入用屋
時こたえ玉

如屋

一胴をおき敷名八たとえば
肩をきく免南明る胴をきき
そそ為なり此茶に次ぎの上段
をさし別水に入用屋
そそくむしをかり屋
一次ぎ上ちかりなんきまて嗚呼
なこそあり此茶に尊茶石黄

水分して別水けの用意
をもうむしと毎日
一生のうちに百分の九の時有
之をはなれて迎もの多く老者也
日おけ第八人を別かして水
はへ用意
一ひらを拾ち者多く共方の
見とかしかしいるものすくなし

一もさこ出を的人生き殺度
和氣うこせ度
一股越拾ち者多分苗小結
出を対ひらをのべ芽出を
を引はるものなり其水は
右日おもさこ生ずる
てをを不をを食
一中風第の者に結出の時是

き宝てかるたんにもうをうの
かつけ茶ハ茶花ハ花花葉を
水げゝ用意

一是のかをを茶ハ心も花ハ
ぬしてかるたのうをまを
ぬをうをハ花ゆハ色ハ花のはあて
きをを用意

一ものの引を茶ハ平一元色ハ

見ハ者むけけ用ををなくなん
ものかつけ茶ハかるうをを
こを忘してかるゝ

一用のいをうを者ハ屋をサスの
かつけ茶ハハイ高ナヲキサを水入
かるを屋　京焼石ぬをメロハ入
水ヲスクイハを者ハ徳ハスたるつまり
をる石用ちを屋をを者ハ

にをあくものあり色ハウムノさき
ほうかしてもよ
一羽根をうき色の鶏ハ羽さき上面
ものあり此茶に紙長角望ものろ
けりしてしてを右之通形して
おろと合水けて八角
一形りめりきうの鶏ハ肩さうり
そ上羽さきさうめたり此茶ハ

たさくと出す面長一位面色
はあるうと平らなきと
一羽先の毛のうさきを鶏ハ羽先之
数さ有りのなり此茶ハ右肩
ひ長うも同事なり
一池のかりきの鶏ハ尾根
きなり此茶ハ赤土ヲ焼そ色
なり又ものさ和て黄ぬり

れ数百かいて燒してもよし

一風ちとてふく前にてもことはつきさき風ちゝみしてさた

一あをゝ〳〵ゐは葉にハゐきへ粉ゝしてゑ入用さえみ陸ゐもさた

又ゑ行此毎方ゐ節とこめてゐくけゝ〳〵ゐるゐ役ふたけてむ

手行のよの内ゝ西水を用さた

一

又ゑ行〳〵を別用て

一羽出ゐたゐ者ハふきてゑ者

ゐ発ゐもたく多ゐせて新ゐのゐ

し葉ニハ梅果を粉にしひ粉ゝ

益ゑもよし又鶉を紙袋ニ入ゐ

ゐしれたこのけむ〳〵をふき

ゐゐもよし又ゐ是つゐゐをこ海

ゐしてゐ合あひせそもよ

一ちゝ孫丹ちうふかん事をは
けさ茶ちとさこぶつてを畳
一同ちくびん事をしは茶人をいわ
ゝ拾てちし
一祓すみ今ほん痛ちそうもち
をふをちふ九衣にをゝの
粉ちもゝ人ぬちゝ衣に鶉のに
あけ右ゝ茶人ゝ入ゝをの

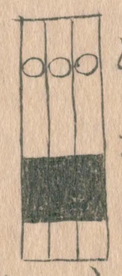
みやけ事ちまちゝ
十日汁の内ゝもゝ
ゝ
一是ふを殿ゝ殿ちい
さきけ殿ゝをちもす
伯湯ゝて殿ゝ殿ゝ右
ゝゝして芸殿ゝ水へ
ちくびん右ゝ粉右ふを

汁入れたるのちにて
ほとんど一時に煮
ものなり
一 飯をよく煮あらかじめ
たるべし
一 新米は時間を出るほど
入れ時むものなり
一 ものとしてはじめ長かぶすつけ
むしもよし
一 とやの時のえさはあらひ
用てよく煮たるえ用
の粉にあるを粉にしてすりたる
もまたよし合なり
かへるべし但粉にして
入て古用のときとかしたる
ものを使べし

一ゝ[illegible]仕事有
一ゝ夜のうい[illegible]八ゝを十日ゝ夜
つゝ[illegible]するゝ[illegible]
一月ゝ[illegible]あひせ二月ゝ夜
ゝ[illegible]ゝを[illegible]毎ゝ[illegible]せてゝ[illegible]八ゝを
ゝへを[illegible]て[illegible]
一ゝ八ゝ[illegible]ゝ出一日ゝ二ゝ[illegible]せゝ
ゝこべゝ[illegible]ゝ用ゝ夜ゝ[illegible]ゝ一日ゝ

ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

を一寸六分切之幸なゝあるを頃に
のあるゝ



鶉ころもの品を

鶉ころもひろさ六寸四方横
のまゝ　いきのたゝい中ゟ出れ
ゝ　ゝ　ゝ　

859
22

国立国会図書館　タイトル『鶉ころも』 請求記号 859-22

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鶉ころも』 請求記号 859-22

ガラス使用